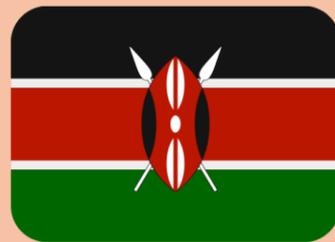


Pole Pole ケニア通信

2025.1③



JICA 海外協力隊(環境教育) 和田温子

こんにちは！今回は、【ケニアの年末年始】と【ケニアの日本食】について紹介します。

ケニアのクリスマスは日本のお正月



多くのケニア人はキリスト教のため、クリスマスは彼らにとって一大イベントです。ケニアでは、12月25日と26日は祝日です。クリスマスの前後は多くの人が長期休暇を取ります。私の配属先では、同僚たちは有給休暇と合わせて、12月～1月に1カ月ほど休暇を取るのが普通です。他のオフィスも同じような状況なので、12月になると訪れるクライアントや会議の回数がいつもよりぐっと少なくなります。ケニアでは家族と離れて仕事をする人や寮生活を送る学生が多います。この時期は、それぞれの家に戻り、家族や親戚と過ごします。日本のお正月に近いと思います。人々が一斉に移動をするので乗り合いバスは混雑し、運賃も2倍近くに上がります。

日本のクリスマスと大きく異なる点は、南半球のクリスマスのため、寒くないということです。季節は乾季になるため、日差しの強さは夏のように。首都のナイロビでは、クリスマスツリー、イルミネーションやサンタクロースを見ることがあり、クリスマスらしさを感じられますが、私の住む任地は何もなく、いつも通りの風景です。日本のようにクリスマスケーキを食べる習慣やクリスマスプレゼントは一般的ではありません。私の周りのケニア人たちに様子を聞くと、ヤギ肉を焼いて食べるのがクリスマスが一番のごちそうで、子どもたちにとってのプレゼントは、保護者から新しい洋服をもらうことだそうです。ケニアのクリスマスは日本のような華やかなイベントではなく、普段は離れて暮らす家族や親戚が集まって一緒に過ごすことが一番大事なことです。

新年は1月1日が祝日です。日付が変わる瞬間は花火がたくさん打ち上がり、とても華やかです。人々は「Happy New Year」と言い合います。日本と違い、1月2日以降は通常の平日なので、新年のお祝い気分がすぐに終わるのは少し不思議な気分です。

①



②



③



- ① ナイロビではクリスマスツリーをよく見かけます
- ② ショッピングモールでは、イルミネーションがきれいです
- ③ ケーキはスーパーで日常的に売っていますが、誕生日や結婚式などの特別なお祝いの機会に食べることがほとんどです

ケニアでも日本食を楽しめる

首都のナイロビは大きく発展していることもあり、日本食材を扱っているお店がいくつかあります。そこでは醤油やみりんなどの調味料、カレー粉、日本米、うどん、豆腐、薄切りの豚肉も手に入ります。日本食を作るのに必要な食材はだいたい手に入ります。ただし、地方や私の任地にはこのようなお店はないので、ナイロビに行く際に買い出しをよくしています。日本と比べるとやや高い金額ですが、それでも遠く離れたアフリカの地で日本食が手に入ることに感謝します。醤油だけは任地のスーパーでもよく売っており、ケニア人も日常的に使用する調味料です。また、ケニアにも有名なお米の生産地があり、ケニア産のコシヒカリを手に入れることができます。ケニア産の大豆を使った、みそもあります。

日本食を食べられるレストランもナイロビには多くあります。お客さんもケニア人、外国人と様々です。日本食がケニアでも好まれているのは嬉しいですね。

<p>①</p> 	<p>②</p> 	<p>③</p> 	<p>④</p> 
<p>① 基本的な調味料はケニアでも手に入ります ② 日本食レストランにて、から揚げ定食を食べました ③ まるで日本で食べているかのようなそば。ラーメンを食べられるお店もいくつかあります ④ ケニアにもお米はたくさんありますが、やはり日本のお米はおいしいです</p>			